



コタンメール 59号

2010年10月25日発行

担い手講座研修生がカムイノミで活躍

9月17日、登別市で行なわれた知里幸恵銀のしずく記念館のチセノミ(新築祝い)で、当館担い手育成講座研修生5名がカムイノミ(神への祈り)で活躍しました。

祭主を務めた北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授北原次郎太氏の指導により、男性研修生の八幡さんは、研修で実際に酒造りをした経験を活かし、カムイに捧げるトノト(お酒)を中心となって造りました。また、合間にはヌサ(祭壇)を構成するイノウ(木幣)を製作するなど、夜遅くまで博物館に残って式の事前準備を行なっていました。

チセノミ当日も、八幡さんはヌサに祭られた重要な3神のうちのシランパカムイ(森林神)に祈るという大役を務めました。女性研修生の川村さんと木村さんはイヨマレ(酒を注ぐ役割)を、山田さんはパケシ(男性が神々に祈った後の杯を受けること)を、堀さんは儀式の要所をおさえながらビデオ撮影をそれぞれ担当しました。

研修3年目の最終年、今回のカムイノミは、それぞれが緊張の連続でしたが、式終了後は今まで積み重ねてきた研修の一部が成果となって表れた満足を感じ、大きな自信となったようです。(きだみずえ)



シントコカラカラ(酒樽の口切り式)を行なう八幡さん

あの「お父さん」の息子「空」が博物館にやってきた！

9月22日、「お父さん」(ソフトバンクモバイルのCM)で活躍しているカイくんの息子「空」が、天然記念物北海道犬保存会鶴川支部長の豊田康秀さんより北海道犬の周知と保存に役立てて欲しいと寄贈されました。生後2ヶ月で博物館に遊びに来たときにはまだ小さかった空は、今では体長50センチにもなり、すくすくと、わんぱくに育っています。空に会いにわざわざこられる来館者も少なくありません。館内を歩き回る散歩の時間には、先々にたくさんの方が集まり、いそがしく動き回る空を写真におさめるのに四苦八苦です。動物は子どもに優しいといいますが、おそろおそろ触れようとする小さな子どもには、じっと触れさせているように見えます。多くの人に



に囲まれても物怖じせず喜んで飛びついては愛嬌を振りまいていますが、端正な顔立ちは母親のピリカ、堂々とした風格は父親のカイクんにそっくりです。

「北海道犬はアイヌ民族とは切っても切れない存在。狩猟にはいつも一緒に、強いクマを威嚇し狩りをたすけた。一般の家庭で飼われると個人の楽しみになってしまうが、博物館であればみんなに可愛がられ、喜ばれる。その上北海道犬の保存や周知にもつながる。」とは寄贈者の豊田さんの言葉ですが、皆さんにこんなに愛されている様子を見たら、きっと喜んでくださるでしょう。(きだみずえ)

秋の味覚、どんぐり! …といっても、今の人々はなかなかどんぐりを食べようとは思わないですよ。どんぐりというよりは栗の方が秋の味覚というのに相応しいでしょう。

昔からどんぐりを食べてきました。どんぐり類のカロリーはシカやクマの約3倍、サケの2倍強もあるそうで、明治初期には農作物の不足部分を野生食料で補っていたそうで、それも動物からではなく、どんぐり等の堅果類けんかるいがその大部分だと言われています。

今回、私たち担い手育成事業研修生は研修の中でどんぐりを採取加工し、食べてみようということで拾い集めてきました。どんぐりは、ミズナラの実(ペロニセウ)、コナラの実(チカブニセウ)、カシワの実(トゥンニセウ)などがあります。どんぐりを食べるには強い洗みがあるので灰汁抜きをする必要があります。



カシワのどんぐり

どんぐりは地面に落ちたものを拾い集めてきました。そのまま保存するとすべてが虫に食われてしまうので、ボールに水を張りどんぐりを入れて浮いたものを取り除き、沈んだものだけを使います。鍋に移し中まで火が通るようによく茹でてから乾燥させます。一度、茹でて乾燥させることによって強い洗みを抜くことができるそうです。

食べ方は、殻を口いて臼で搗き粉にしてシトつ(だんご)にしたり、ラタシケブ(煮物の様なもの)にいれて食べます。浦河地方の聞き取りの中では、「どんぐりは胃腸薬の中でも名薬とされ、どんぐ

りの洗みは下痢を抑える役目もする。お産祝いには、魔よけとしてのイケマの根や赤子のために用意した布とともにどんぐりだんごを二個持参する。一個は母親用でもう一個は赤子用である。赤子の体調が悪ければ、すぐに削って粉末にしてなかば強引になめさせる。赤子が7歳になるころまでに、どんぐりだんごはあらかたなくなってしまう。幼い子供に病魔がいたずらしようと試みても、どんぐりだんごがあれば効果がないとわかって手を出しにくくなり、



ミズナラのどんぐり

子供は無事に成長できるのだ。」(『聞き書きアイヌの食事』から抜粋)

その他、カシワの実(トゥンニセウ)は洗みが少ないようで茹でて乾燥させたものを子供たちのおやつ代わりにと、あめ玉のようにしゃぶって食べていたそうです。

私たちの作業は、どんぐりを乾燥させている段階なので食べはいいのですが、これからの作業が楽しみです。また、このポロトコタンのクマたちもきっとどんぐりや栗が好きだろうと思ひあげてみました。するとクマにも性格があるようで、陸くんと海くんは殻をむいて丁寧に食べ、花子ちゃんとアムールくんは殻ごとバリバリと食べていました。(ほりたえこ)